

平成21年度

学 校 自 己 評 価 書

宮崎県立宮崎大宮高等学校

平成22年 3月

1. 教育方針・学校経営ビジョン・努力目標・重点努力目標

教育方針
<p>教育基本法の理念と宮崎県教育基本方針、宮崎県人権教育基本方針、「明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」「のびよ！ 宮崎の子どもたち」に基づき、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 中学校における教育成果をさらに発展拡充させ、国家・郷土社会への誇りと愛情を深め、その有為な形成者の育成を期する。2. 人間尊重の精神を基調として、健全な批判力と個性の確立に努め、柔軟な国際感覚を持ち、自主的精神に満ちた、心身ともに調和のとれた人間の育成を図る。3. 基礎学力の向上と創造性を啓発し、個性に基づく適正な進路指導を行う。4. 開かれた学校を目指し、学校・家庭・地域及び学校間や各種機関等との連携を深める。
学校経営ビジョン
<p>本校の教育の理想とする人間像である「真理を探り、美にあこがれ、善を行う、心身ともにバランスのとれた人間」の育成など、よき伝統を受け継ぐとともに、「生徒の知りたいを刺激する授業、夢実現につながる学力を培う指導」、「『夢＝挑戦』から『高き夢＝実現』へと高きを目指す進路指導」、「あれかこれかではなく、あれもこれも、生徒の長所を伸ばす指導」、「生徒がそして保護者が職員がワクワクする話題性をつくりだす学校経営」を行い、常に進化し続ける宮崎大宮高校づくりに努める。</p>
努力目標
よき伝統を受け継ぐとともに、常に進化しつづける学校を目指す。
重点努力目標
1. 「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」を育成する。
2. 質の高い進学校を目指す。
3. 職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す。
4. 職員研修の充実を図る。

2. 各重点努力目標と自己評価等

(1) 重点努力目標： 「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」を育成する。

評価項目	「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」の育成への取組					
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての見直し	前年度の取組を見直した事項
<p>①自主自律できる生徒を育成するため、学校行事の企画運営を生徒に任せる等、活動の場を保障した。生徒総務委員会の各種委員会が定期的に活動報告を行い広報誌を定期的に配布した。また、生徒総務委員会の各種委員会の実行委員を公募制とした。</p> <p>②学校行事の実施内容を検証し次に生かすためにアンケート内容を改善し、学校行事後直ちにアンケートを実施した。</p> <p>③自ら学校環境の美化に取り組む生徒を育てるために、清掃開始時刻前2分30秒に清掃開始の音楽を流したり、早朝の清掃活動や月1回、朝のSHR時の2分間美化活動を実施した。廊下やトイレ等に花瓶を置いたり花促進委員が中心となって学級花壇を整備した。</p>	4	<p>①生徒自身が高校生活の取組などについて現状や改善点を明確に認識できる活動報告になるよう工夫を加えるなど意欲的な取組が見られた。各種委員会の実行委員募集においては常に定員を上回る応募があるなど、生徒の生徒会行事への参加意欲も高まった。また、各種委員会と各クラスとの繋がりが一層強くなった。</p> <p>②体育大会や文化祭のアンケート調査では、90%以上の生徒が生徒会総務の企画運営について肯定的な感想を持つなど、大多数の生徒が生徒会総務委員会の活動を支持し、生徒の行事に対する意識や取組も高まった。</p> <p>③音楽が流れるとともに生徒が清掃に取り掛かるなど自主的な清掃への取組が一層高まり、教室内の環境整備に対する生徒の意識も高まった。気付いた生徒が率先してトイレの下駄を並べる姿が多く見られたり、生徒が学校内外のボランティア活動にも積極的に取り組んだり、自ら学校環境等の美化に取り組もうとする意識が促進された。さらに、学級花壇等に1年を通して四季折々の草花が見られるようになり、学校全体に落ち着いた雰囲気が一層醸成されるようになった。</p>	<p>☆各種委員会の委員長会等を定期的に開催し、各種委員会のリーダー養成に一層努める。</p> <p>☆生徒の活動意欲がさらに繋がるようにアンケートを一層改善するとともに、検証方法についても検討する。</p> <p>☆保健部と連携し、トイレ等の衛生管理や清掃活動の一層の充実を図る。花の寄せ植え講習会等の開催を検討する。</p>	<p>◎各種委員会の実行委員を公募制にしたことは良い事である。公募制にすることで、多くの生徒にリーダーとなる機会を与えることになり、リーダー養成に役立つ。</p> <p>◎アンケートがPDCAに基づいて作成されており、その集計結果内容(要望や満足感等)が次の企画に十分に反映されている。</p> <p>◎昨年度の評価に対する取組の見直しが今年度の取組等に反映され、十分な成果も出ている。期待以上に目標達成が成されたと考え、自己評価を4としてはどうか。</p>	<p>☆自主自律できる生徒の育成に向けて、学校行事等に生徒の意見が一層反映され、より一層自律的、主体的に活動できる場を保障する。</p> <p>☆アンケート結果の内容がなお一層次の活動等に生かされるよう、アンケート内容、方法等を検討し、必要があれば改善を加える。</p> <p>☆学校関係者評価を受け、自己評価3を4に変更した。</p>	<p>◇アンケート調査を実施する際に、どの活動、どの取組が生徒の意欲向上につながったか分かるものへと改善する。</p> <p>◇校内外のボランティア活動に対する生徒の意識を更に高め、積極的な参加を促す工夫を検討する。</p>

□ 自己評価指数： 4 (期待以上)、3 (ほぼ期待通り)、2 (やや期待を下回る)、1 (改善を要する)

(2) 重点努力目標： 質の高い進学校を目指す。

評価項目	質の高い進学校を目指す取組					
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての見直し	前年度の取組を見直した事項
<p>①確かな学力を保障し、生徒の高き夢実現のために、日常の授業の充実、定期・実力考査の在り方の共通理解、学力の補充・演習のための課外授業、自主的な学習会の充実を図った。</p> <p>②進路意識を醸成するため、進路に関する面談週間や、進路講演会を計画的に実施するなど、進路に対する啓発の機会をできるだけ多く設けた。</p> <p>③進路意識を高めるため、2学年の総合的学習の時間の大学教授による出前講義を生徒による学部学科研究と連携させた。文科情報科の総合的学習の時間を学校設定科目「探究」として再構築した。また、キャリア教育を充実させるため、学年PTAに学年や時期に応じて効果的な進路講演を取り入れたり、PTAに依頼して職業講座（大宮ハローワーク）の対象学年を1、2年に拡大した。</p>	4	<p>①職員の授業研究等への取組が充実するとともに、授業アンケートの結果を授業改善に生かす等、生徒の確かな学力を保障しようとする職員の意識が一層高まった。また、学習会に、ほぼ生徒全員の参加があり、生徒自身の自己の夢実現に向けた真摯な取組が見られた。</p> <p>②生徒への面談週間を年間2回設定することにより、生徒は自己の夢実現のために積極的に担任等に相談する様子が見られるようになった。また、学年毎に、それぞれの指導時期（6月、9月、10月）に応じた進路講演会を実施し、その内容を生徒や保護者との面談に生かすことにより、担任等への相談回数が増えるとともに、生徒や保護者の進路意識が醸成されていることが、進路講演会後の生徒の感想文でわかった。</p> <p>③生徒が大学教授の講義を直接受けることにより、生徒の各自の進路意識の高まりや、進路希望と関連づけた学部学科研究（「GG制」）への取組が深まったことが講義終了後の生徒の感想文等でわかった。また、大宮ハローワークを1年生にも拡大して実施することにより、1年次より生徒、保護者の進路等に関する意識が高まったことが、終了後の生徒のアンケートでわかった。</p>	<p>☆3学年を見通しながら、生徒の志望校に合わせて、志望校別集会を学期に1回ずつ開くなどの取組を検討する。</p> <p>☆3年間を見通して進路面談や進路講演会等の進路に関する行事を、進路指導の適時（初期、学力養成期、学力飛躍期、大学受験スタート期、実力飛躍期等）に効果的に連動できるよう次年度の計画を立案する。</p> <p>☆生徒の感想文やアンケート等を参考にして、進路指導部や学年間の連携を更に密に図り、3カ年の計画の見直しを行い、次年度の計画を立案する。</p>	<p>◎生徒の学習に対するモチベーションを高めるために教える側(教師)のモチベーションを高める取組や研究が十分になされている。</p> <p>◎生徒の進路意識を高め、大学や将来の目標や生き方等の構築に役立つ様々な取組が行われていることが評価できる。</p> <p>◎大宮ハローワークの取組において、対象学年を1年まで拡大したことは、職業観育成の大きなきっかけとなり、生徒にとって一層説得力のある取組となっている。</p> <p>◎自己評価3は、4にしてもいいのではないか。</p>	<p>☆生徒へ確かな学力等を身につけさせるため、生徒の高き夢実現に向けて、生徒のモチベーションを高めるよう、授業研究や授業改善を更に推進する。</p> <p>☆大宮ハローワークを次年度も継続して実施し、より一層の成果があがるよう、内容や実施形態等に工夫を加える。</p> <p>☆学校関係者評価を受け、自己評価3を4に変更した。</p>	<p>◇卒業学年のPTAに、3年間を振り返って、どのPTA活動等が生徒の進路決定等に対し、役立ったか、評価できるようなアンケートを検討する。</p> <p>◇次年度もPTAの協力を得て、職業講座（大宮ハローワーク）等のキャリア教育に関する活動を計画実施するなど、一層幅広い取組を行う。</p>

□ 自己評価指数： 4（期待以上）、3（ほぼ期待通り）、2（やや期待を下回る）、1（改善を要する）

(3) 重点努力目標： 職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す。

評価項目	職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す取組					
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての見直し	前年度の取組を見直した事項
<p>①学校とPTA間の連絡・伝達事項の徹底を図り、学校の教育活動への理解をさらに深めるために、保護者に携帯電話による宮崎大宮高校連絡網への加入や電話ボイスボックス利用を積極的に勧めた。</p> <p>②学校と保護者、PTA理事との連携や相互理解が一層図られるよう、PTA総会の欠席者に対して2次集会を実施した。また、学校通信「自主自律」の月1回発行や、HPの常時更新に努めた。更に、PTA理事会に学校側から進路指導主事等が参加し、学校の教育活動の様子や生徒の現状等を説明した。</p> <p>③前年度のアンケート内容を参考にして、日程に日曜日を加えるなどオープンスクールの内容等を変更した。</p>	3	<p>①保護者の大宮高校連絡網の加入率が76%に向上した。連絡網を利用してPTA行事や学校主催の各種会合の案内、インフルエンザに関する情報などをタイムリーに発信することが可能になった。また、保護者への学校からの案内等の伝達がよりスムーズに行われようになった。</p> <p>②PTA理事会に進路指導主事や生徒指導担当主幹等が参加し、学校の教育活動の様子や生徒の現状等を説明することにより、PTA理事の学校の教育活動に対する理解が進み、学校とPTA理事、PTA理事と保護者との連携や相互理解が一層図られ、PTA活動のより一層の活性化へと繋がった。</p> <p>③中学生向けの普通科説明会へ868名(昨年度732名)、文科情報科説明会へ156名(昨年度137名)、更に保護者が447名(昨年度295名)参加するなど、参加人数が昨年度を大きく上回った。また、アンケートにおける参加者の満足度も、普通科82%、文科情報科89%と高い数値を得た。</p>	<p>☆保護者の大宮高校連絡網への加入率をさらにアップさせ、PTA間の連絡・伝達事項の徹底を図り、学校の教育活動の理解と協力を促進する。</p> <p>☆保護者、PTA理事と学校関係者の一層の連携を深め、PTA活動の更なる活性化を図る。</p> <p>☆アンケート結果を分析し、来年度に向けて更に内容や日程について検討を加える。</p>	<p>◎情報は多く発信すればするほど、発信者の元に新たな多くの情報がもたらされる。中学生にとって「あこがれ」の存在である高校からの情報発信は中学生にとって励みにもなるのではないか。</p> <p>◎オープンスクールに日曜日を設定したことで、中学生、保護者にとって学校を理解していただく機会が増加したことは、大きな成果である。中学生、保護者、地域等に一層開かれた学校になっている。</p> <p>◎自己評価3は妥当であると考える。</p>	<p>☆中学生、保護者、地域に対して、今後もリアルタイムな情報を発信できるよう、情報発信方法の工夫や内容の充実を一層図る。</p> <p>☆開かれた学校を一層目指すとともに、学校の良さ等を中学生や保護者、地域等により一層知ってもらうために、オープンスクールの日程、内容、実施方法等を改善する。</p>	<p>◇ホームページの常時更新を今後行うとともに、アクセス回数の表示方法を工夫する。</p> <p>◇PTAと学校とが力を合わせて、PTA活動の充実に向け今後も努力する。</p>

□ 自己評価指数： 4 (期待以上)、3 (ほぼ期待通り)、2 (やや期待を下回る)、1 (改善を要する)

(4) 重点努力目標： 職員研修の充実を図る。

評価項目	職員研修の充実を図る取組					
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての見直し	前年度の取組を見直した事項
<p>①生徒に確かな学力を保障し、生徒の高き夢実現のために、教師による参観授業期間を設定するなど、授業研究の充実を図るとともに、本校の教科指導支援教員（県教委選定）等の授業を中心に授業参観を積極的に実施するなど、教師の教科指導力向上研修をさらに推進し、日々の授業の充実を図った。</p> <p>②生徒による授業評価を継続して実施するとともに、オープンスクールでの授業参観等の成果を、教師や生徒へフィードバックし、新学習指導要領を見据えての授業改善等に活かした。</p> <p>③教育課程に関する研修会・授業改善研修会、小論文指導研修会や大学入試問題研究発表会、各種研修の報告会、校長通信「若竹の如く」の発行等を行い、一層の授業力向上を図った。</p>	3	<p>①1学期と2学期に「授業参観カード」を用いた授業参観を実施し、その後、「授業参観カード」を基に、教科会で合評会を開き、各教師の指導上の課題を明らかにして、改善策を協議・検討した。毎年継続して相互授業参観することにより、お互いの指導技術や指導方法等について共通理解、共有化が図られ、このことにより、各教師の教科指導力向上や授業改善に一層繋がった。</p> <p>②生徒による授業評価の課題となる項目を分析し、その課題を解消する授業改善の方策を検証するなどの工夫を加えた結果、次のステップへ繋がる授業改善がなされた。なお、概ね充実した授業がなされていることがわかった。</p> <p>③職員の大学入試問題研究発表会や校外講師による小論文指導研修等を充実させた。また、研修を通して生徒の学習指導や進路指導に学校全体で取り組む意識が一層高まるとともに、各教師の教科指導力向上や授業改善に繋がった。</p>	<p>☆新学習指導要領の理念の中で、特に「生きる力」の育成や思考力・判断力・表現力等の育成を念頭において、各教科で授業改善に繋がる研究授業や授業研修の一層の充実に努める。</p> <p>☆生徒による授業評価を一層充実させるとともに、オープンスクールでの参観授業等のアンケートをもとに、次年度に向けて授業の充実を図る。</p> <p>☆大学入試問題研究や小論文指導研修等の研修内容や研修方法等を検証し、次年度に研修を一層充実させるために、計画を立案する。</p>	<p>◎教師による「授業参観カード」を用いた授業参観の取組は、自分自身の授業を客観的に見つめ、色々な視点から考察し、教科指導等の研鑽に繋がり、それが生徒へと還元される良い取組である。</p> <p>◎学校全体で大学入試問題や小論文指導などの研究に取り組むことによって、学習指導や教科指導に関する情報や危機意識の共有化が教師間に図られ、その後の発展的取組へと繋がるので大変良い研修である。</p> <p>◎自己評価3は妥当であると考える。</p>	<p>☆「授業参観カード」の改善等を行うとともに、教師による授業参観を今後も継続して取り組み、授業改善、指導力向上等に生かす。</p> <p>☆本年度の研修の反省をもとに、今後も3ヵ年を見通した学校全体で取り組む研修を継続して実施するとともに、学習指導力や教科指導力向上に向けての研修会を一層充実させる。</p>	<p>◇現在実施している生徒による授業評価を受けての改善策についてさらに検討する。</p> <p>◇今年度の反省を精査し、来年度も職員研修の充実を図ることができるよう検討する。</p>

□ 自己評価指数： 4 (期待以上)、3 (ほぼ期待通り)、2 (やや期待を下回る)、1 (改善を要する)